



瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

聖木曜日 (2021年4月1日)

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：出エジプト記 12章1－8、11－14節

第二朗読：使徒パウロのコリントの教会への手紙 11章23－26節

福音朗読：ヨハネによる福音 13章1－15節

今日の福音は、三つの箇所^{ふくいん}に注目^{かしよ}していきましょう。

「世にいる弟子たち^{でし}を愛^{あい}して、この上なく愛^ぬし抜かれた」(ヨハ13・1)

フランシスコ会の訳には「世にいる弟子たちを愛して、終わりまで愛し抜かれた」とあります。極^{きわ}みまで、限り^{かぎ}ない愛^{しめ}を示された。この愛^{かんが}について考^{かんが}えてみましょう。

神は人間を愛されます。仮^{かり}に人間^{だらく}が墮落^{だらく}しても、神は見捨^{みすて}てることなく、最後の最後まで愛されます。しかも、その愛^{こゝも}し方は、衣^ぬを脱^だぎ、奴隷^{どれい}と同じように、身^みをかがめ、極端^{きょくたん}に低^{ひく}くなられて、足^{あし}を洗^{あら}って、愛するのです。それは、わたしたちが神との交^{まじ}わりにふさわしいものとなるように、主の食卓^{しょくたく}につけるようになるためです。それで主は、わたしたちの汚^{よご}れた足、つまり、汚^{よご}れた心^{こゝろ}を洗うのです。このように、神の愛^{きよ}には清^{きよ}めの力^{ちから}、癒^{いや}やしの力^{ちから}があるのです。

身を低^{ひく}くし、奴隷^{どれい}のようになって、足^{あし}を洗^{あら}うイエスの姿^{すがた}は、わたしたちのために死^しをもいとわな^ない十字架^{じゆうじゆう}の愛^{あい}の姿^{すがた}に結^{むす}びつきます。すべてを与^{あた}え尽^つくすイエス・キリストの愛^{あい}だけがわたしたちの汚^{よご}れを取り去^とり、わたしたちを神の高^{たか}さにまで引^ひき上げてくれるのです。だからキリストは今日^{けふ}も、わたしたちの足^{あし}を洗^{あら}うという奴隷^{どれい}の奉^{ほう}仕^しを秘^ひ跡^{せき}の中^{なか}で果^はたされていくのです。主イエス・キリストそのものであるご聖^{いただ}体を戴^{いた}くとき、わたしたちの心^{こゝろ}は内^{うち}側^{がわ}から清^{きよ}められ、わたしたちは最後の最後^{さいご}まで愛^{あい}してくださる神^{かみ}と出^で会^あうことが出来るようになるのです。

「あなたがたは清^{きよ}いのだが、皆^{みな}が清^{きよ}いわけではない」(ヨハネ13・10)

イエスがご自分^{おれ}を余^{あま}すことなく与^{あた}え尽^つくしてくださるにも関^{かか}わらず、ユダはそれ^{それ}を拒^{きよ}否^ひしました。

主の愛には限りがありません。しかし、人はその愛を妨げ、拒否してしまえるのです。

「あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない」。何が人間を汚れたものにするのでしょうか。それは愛を拒否する、愛されるのを望まない、そして愛さないことです。自分にはどんな清めも必要ないと考え、奴隷の姿になるまで身をかがめた神の愛による清めを受け入れないことです。清めが必要なのだと認めない傲慢な心です。ユダの中に、はっきりとこの「拒否」を見ることができます。ユダはイエスを、ただ権力と成功という観点からだけ評価しようとします。なぜなら、ユダにとって、権力と成功だけが価値あるもので、愛には何の意味もなかったからです。ユダの心は硬くなり、あの放蕩息子のように父の元に帰ることでできない者となってしまったのです。

「あなたがたは清いのだが、皆が清いわけではない」。主イエス・キリストは今日、その限りない愛を妨げ、拒否してしまう、わたしたちの自己満足の心に注意を促しています。主は、謙遜に身を任せ、その謙遜に導かれるよう、ご自分の謙遜に倣うようにとわたしたちを招いておられます。神の家に戻ってくるようにと招いています。キリストと、また、神ご自身との交わりの中に入ることができるようになるために、わたしたちを引き上げる清めの愛に身を任せるよう招いておられるのです。

「主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、模範を示したのである」(ヨハ13・14—15)

「互いに足を洗う」とはどういうことなのでしょう。キリストの模範に倣って、自分のそばに居る人のために、奴隷のように謙遜になって、へりくだって、仕えるものになりなさいという意味です。しかし、さらに一段深めて、主キリストが愛の力、清めの力でわたしたちの汚れを取り去ってくださった。それと同じように傲慢な心を取り去って、自己満足に陥りそうな態度を改めて、互いにゆるしあい、受け入れあい、認めあっていくことも意味しているのです。他人をゆるし、受け入れ、認めるのは忍耐が必要ですが、実は他人もまたわたしのことを忍耐をもってゆるし、受け入れ、認めてくれているのだという事実気づいていくのが大切でしょう。こうして、周りの人々と共に、神の愛の力で清められ、癒やされていくのです。

ご聖体の姿にまで小さくなって、わたしたちを愛してくださる主イエス・キリスト。ご一緒にこのミサの中でご聖体を戴き、愛の力で清め、癒やされていきましょう。